

● 正常精液所見

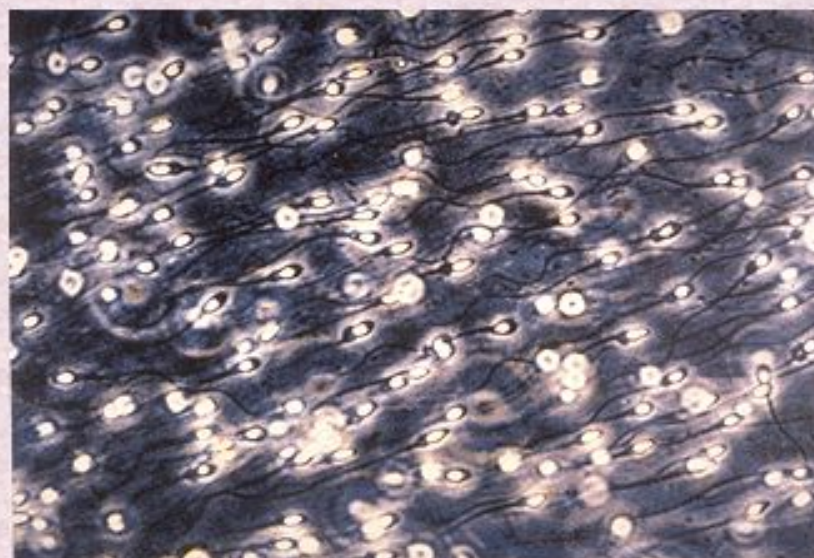
精液検査正常所見

● 精液量	2ml以上	● pH	7.2 以上
● 精子濃度	2,000万/ml 以上	● 白血球数	100万/ml未満
● 全精子数	4,000万/ml 以上	● 生存率	75%以上
● 運動率	運動精子50%以上または 高速運動精子25%以上 (射精分以内)		

(WHO 1999年の基準)

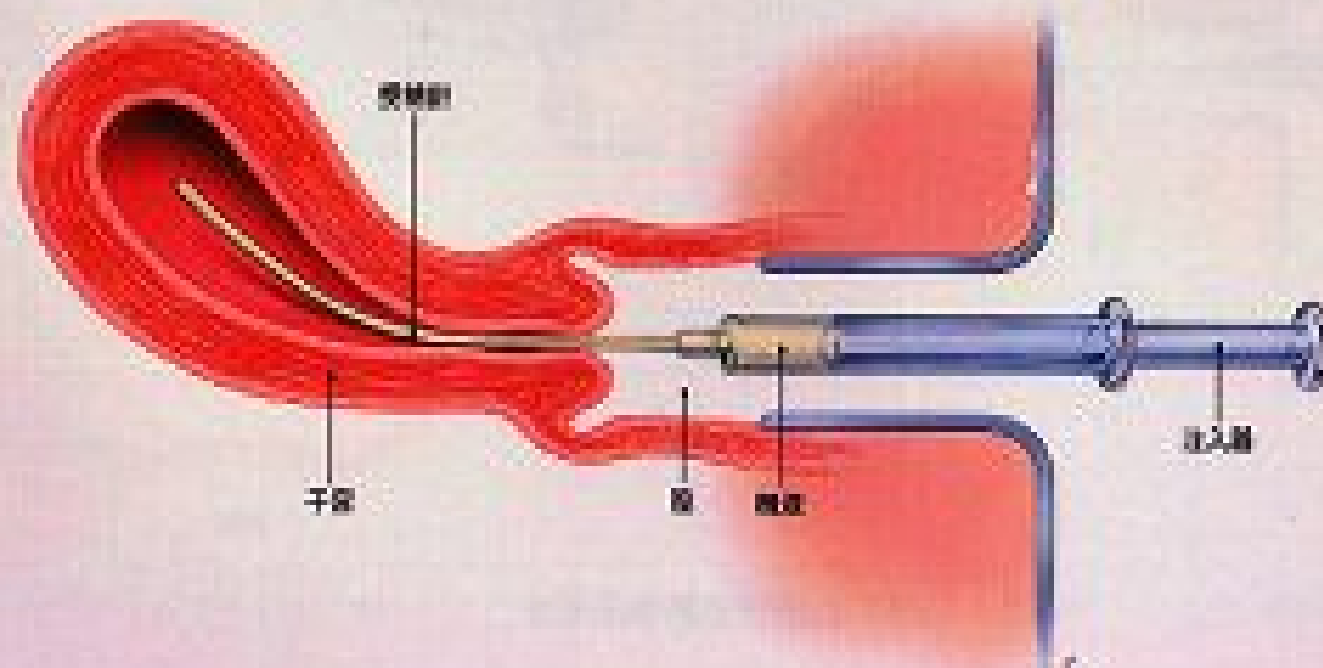
妊娠における男性側の精液所見として、精液量が2ml以上であり運動性のある精子が1ml中に2,000万以上必要だといわれています。

液量	2.0ml以上
pH	7.2~7.8
濃度	2000万／ml以上
総精子数	4000万以上
運動率	50%以上
奇形率	30%以下
白血球	100万以下



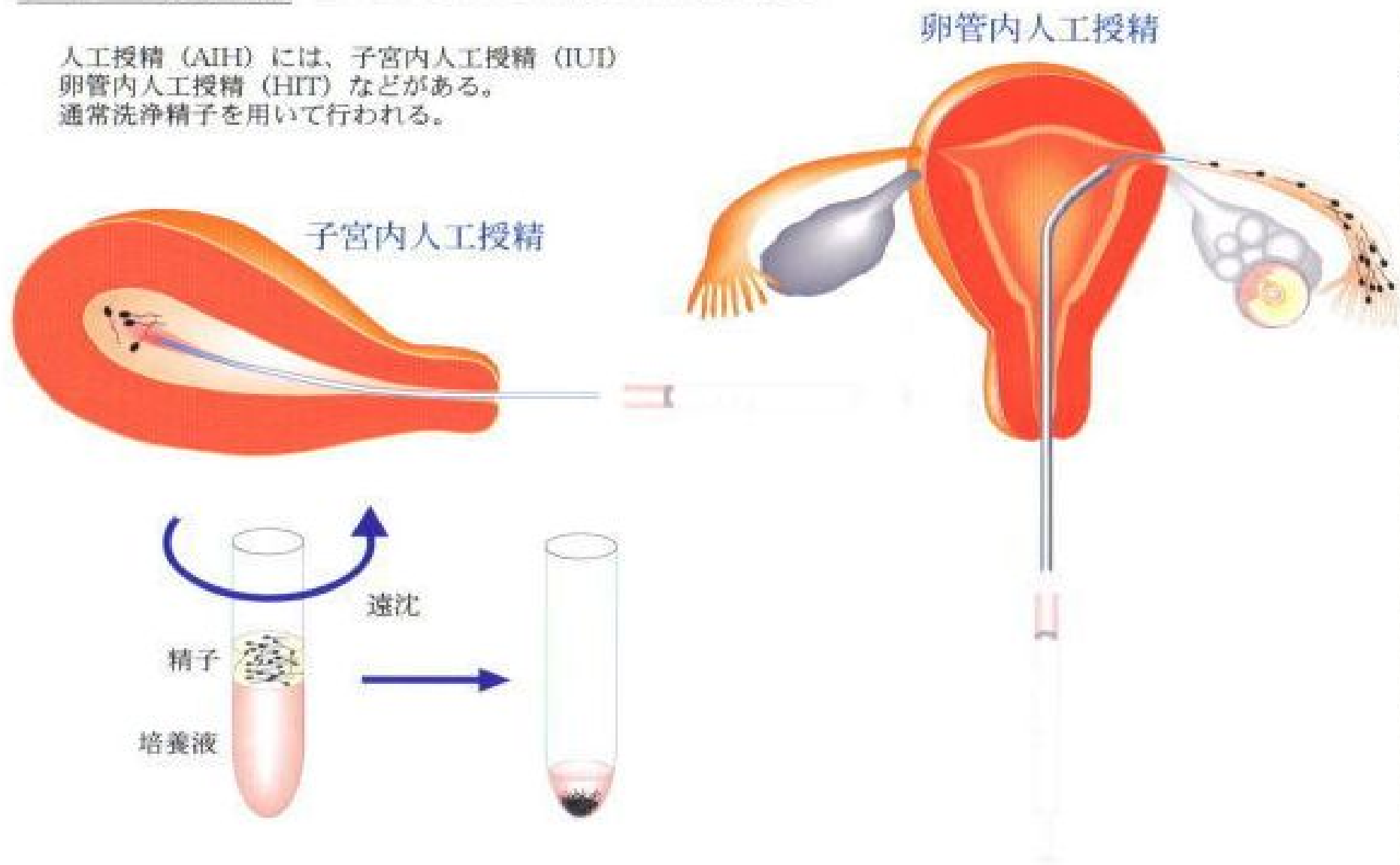
配偶子操作(人工授精)

人工授精の方法(子宮腔内法)



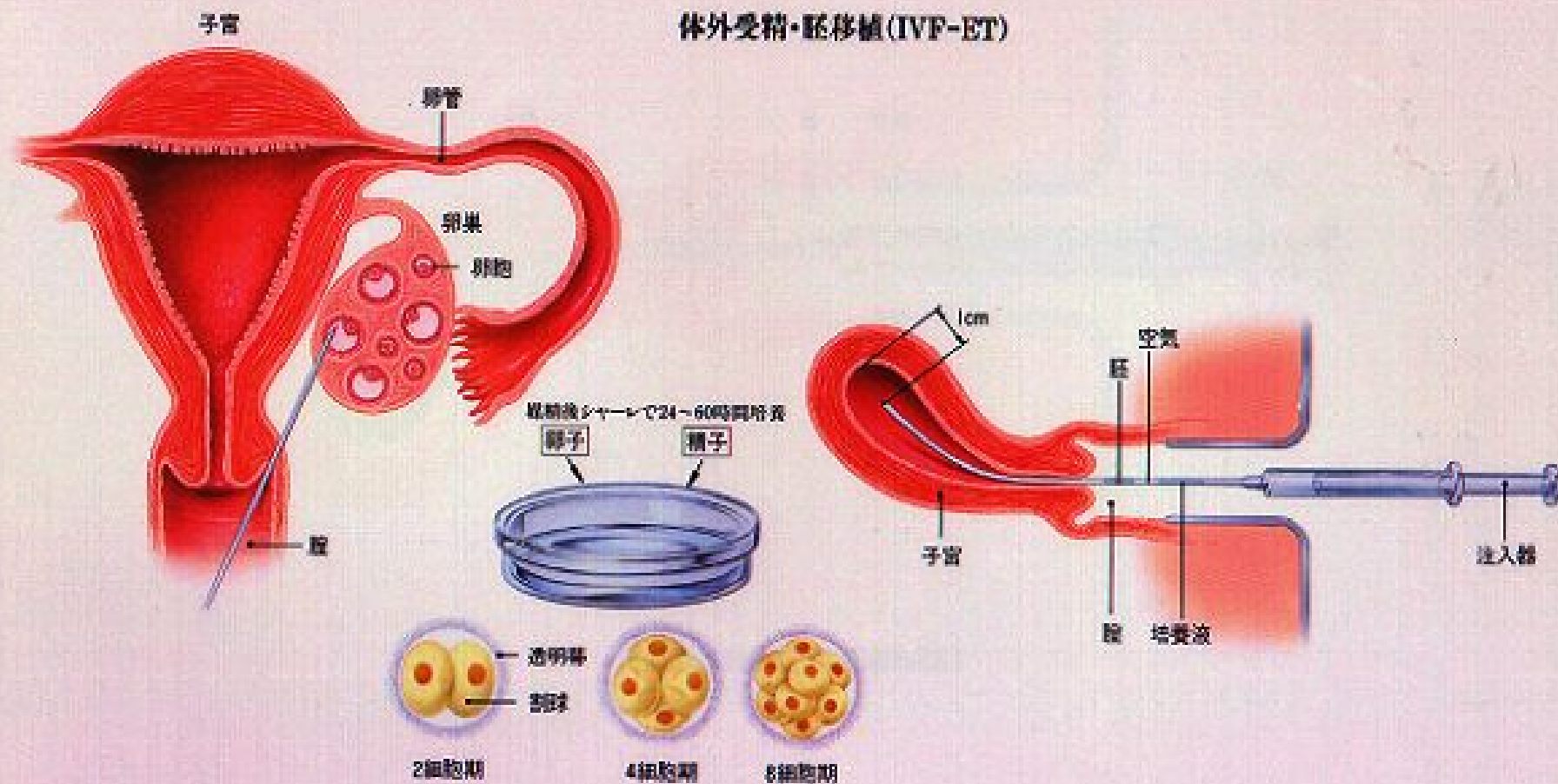
人工授精 Artificial Insemination

人工授精（AIH）には、子宮内人工授精（IUI）
卵管内人工授精（HIT）などがある。
通常洗浄精子を用いて行われる。



不妊症と避妊法 ①

配偶子操作(体外受精)



人工授精

人工授精とは、
排卵日に合わせて
精子を直接子宮の中に
注入する方法。

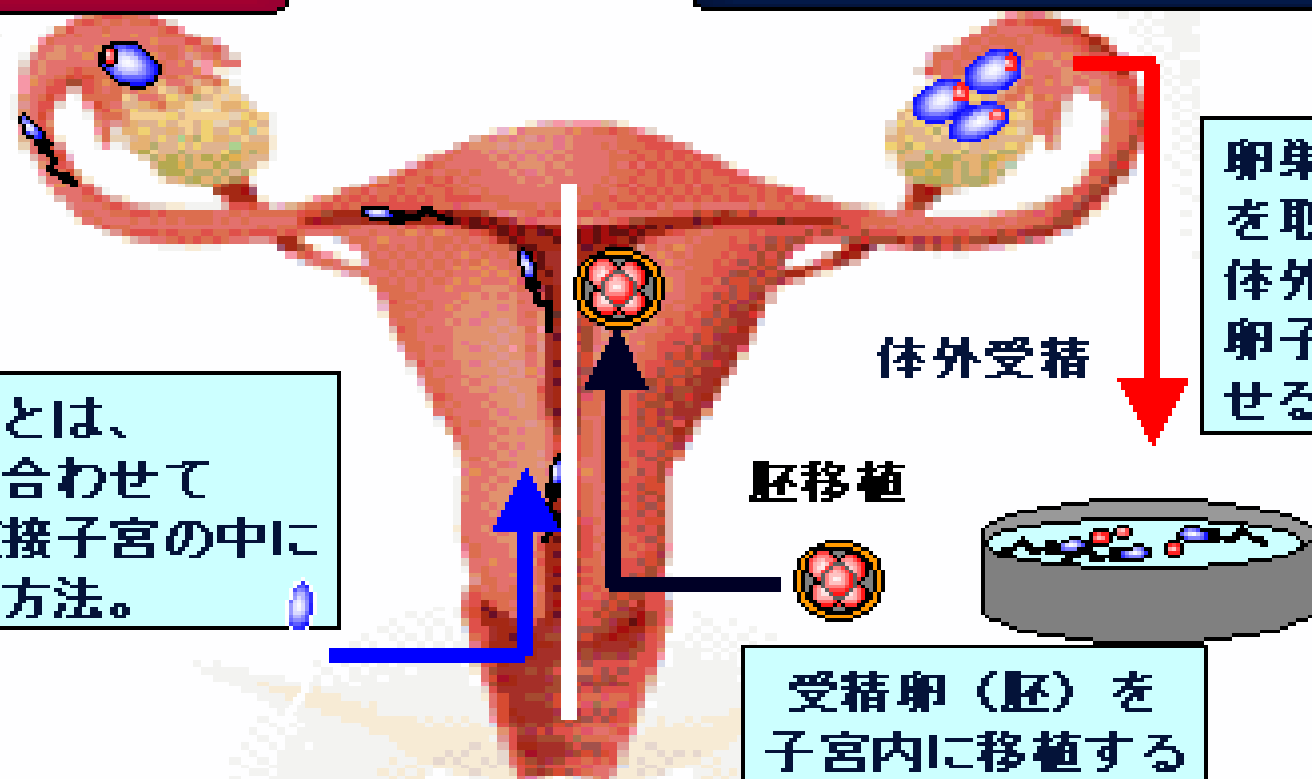
体外受精・胚移植法

卵巣から卵子
を取り出し、
体外で精子と
卵子を受精さ
せる。

体外受精

胚移植

受精卵（胚）を
子宮内に移植する



■IVF-ET(体外受精 胚移植)

体外受精は、卵管が詰まったり、子宮外妊娠で卵管をとってしまったりして、自然な形での妊娠が不可能になった人のために考えられた治療法です。

今日では適応範囲が広がり、卵管性不妊以外に男性不妊、免疫性不妊、原因不明の機能性不妊が対象となります。

また、体外受精の目的は「妊娠」ですが、「検査」として大きな意味があります。つまり、卵と精子がうまく受精しているかは体内でのできごとであって、それを確認することはできませんでした。しかし体外受精は、受精を確認することができ、不妊の原因の受精障害をみつけることができます。

卵子と精子を体外に取り出して受精させ、受精した卵(胚)を子宮に戻します。順調に行けば、約2週間後に妊娠反応が確認できます。しかし、すべての人が順調に行くわけではなく、一番の問題点とされています。また、質の良い卵をたくさん作るために排卵誘発剤を使用します。よって、副作用も注意しなければなりません。希望される方は詳しい説明をお聞きください。

保険が適応されていませんので、自費になります。

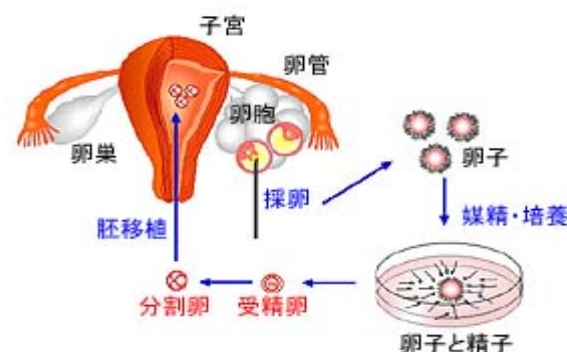
1 卵巣刺激

2採卵

3媒精・体外受精

4胚移植

5黄体期管理



■ICSI(顕微授精法)

主に男性不妊の方が対象となります。精子の数が少なかったり、動きが悪い精子はなかなかうまく受精をしてはくれません。

それで受精を手助けする為に、顕微鏡を使用して卵子に精子を注入すると受精が成立致します。卵子と精子のクオリティが良ければ高い受精率が望めます。このように精子の数が極端に少なくても、この方法を用いれば妊娠が可能となります。

